

鬼子母神

変生男子

御利生

安政二卯年五月二日御届に相成候牛込御門外

かぐら坂上若宮丁居酒渡世遠州屋又蔵と申もの

夫婦むつまじくくらしけるが一子なきをうれひ女房

お松は鬼子母神に誓願をかけ日夜の信心おこたる

ことなし依之神もあはれみ給ひけんつひに妊身し

女子を生けり父又蔵歛て云一子をさづけ給はること

有がたけれ共女子にてはたのもしからすといふに妻は

せん方なきま、おさと、名付そだてけるがはや十二才に

成し比右の由をかたり聞せければおさともくやしく

思ひ女とても男にならざることやあると又鬼子母神を

祈けり然に其年同丁手迹の師へ遣し置ける内

右さとが一念の祈誓にや次第に男根生じ既に

今年にいたり女根は形なく

全是変生男子となりける

仏説をもて云時は妙法の現

利益他経に不説

等覚即仏の

大徳と云べし

斯もめで変事ゆえ

其あらましを記はへる

又蔵娘さと事

改名 文吉

年十五才